



「家」と「施設」は繋がっている。

今年から三つ葉に来ました。どうぞよろしくお願いいたします。三つ葉に入る前は「老人保健施設」で働いていました。そこで思っていたことは、施設と在宅、この2つが別物ではなく繋がったものなんだろうなということです。

私のいた施設では、スタッフは要介護の入居者さんが家族との関わりをもっともっと持ってもらうように努力しました。

まずは入居者さんが家族と「外出」できるように頑張りました。ランチに2時間行くだけなら、おむつ交換は要りません。2時間座位が保てるようにリハ

ビリをしたり、移乗ができる方なら、安全にできるように訓練します。そうしてランチを食べに行かれた方は、こちらが驚くような食事をされていることが多かったです(施設内ではソフト食の方が、お出かけすると、なぜか寿司や鰻を食べられるのです)。

また「外出」ができる方なら、次は「外泊」ができるように努力します。

このように、できるだけ家族との繋がりが絶えないように頑張っていました。生活のペースが家でも施設でも、家族との関わりを持ち続けることによって、その2つは同じ直線状にあるように思います。家と施設、その両方を上手く使ってこそその介護生活です。最近はいろいろなサービスが潤沢です。何か思うことがありましたら、ケアマネさんや三つ葉の医師にぜひ相談してください。(平田・医師)



三つ葉しんぶん 15



2012年10月号

「三つ葉しんぶん」は患者さん・ご家族と、三つ葉医師・スタッフの双方向通信です。

今月の三つ葉 ～ “理想の医師とは” ①

三つ葉の医師は、毎週金曜日の夕方に勉強会を開催しています。在宅医として必要な知識を常に身につけておくため、医学的なことや新しい薬について、あるいは高齢者の暮らしに関わる社会のいろいろな

仕組みについてなど、さまざまなテーマを扱っています。そんな中、先日は「理想の医師像」について、語り合ってみました。今月から何回かわたって紙上でご紹介します。



だれにでも温かく接してくれ、他人の非難はせず、若い人でも尊重して応援してくれる、ある総合診療の恩師は、私の憧れの存在です。そして、絶対に(感情的に)怒らない。これはすごく大事なことでないかと最近感じます。

在宅医療は人と人との関係がとても大事。患者さんはもちろん、ケアチームと一緒にチームで働く医師やスタッフに対しても、常に冷静かつ温和でありたいです。(船木)



私の理想は、医学のことだけでなく、なんでも相談できる医者になることです。在宅医では長いお付き合いになることが多いので、お宅に伺ってお話していると、なにかと病気のこと以外にも話題が及びます。年を取ったり体の調子が悪いと、いろいろなことで不安になったりと思うのですが、そんなときにお役に立てると嬉しいなど、結構いろいろと勉強しています。(坂野)



私は「謙虚」でありたいと思っています。患者さんに対しても、一緒に働くスタッフに対しても、自分自身に対しても。医師としてすごく力があるのに、常に向上心を忘れず、患者さんやまわりの人たちの言葉に耳を傾け、心を開き、時には批判も受け入れる。医師になったときから心に留めていることで、ベテランになってもずっとそうありたいと思います。(日吉)

医学部に入るとすぐに、まずは医療現場を体験するというカリキュラムがあります。私は三河湾に浮かぶ島の診療所に行き、そこで朝は外来、午後は往診、超音波検査から褥瘡の処置まで、なんでもやってしまう先生に出会い、スゴイなと感じました。淡々と診療しているけど、患者さんには温かい。そんな10代のころに見た医師像の原風景が、今の在宅医療と重なり、私の理想となっています。(浅井)



● 掲示板 ●

● お便りお待ちしております

巻頭でご紹介した「理想の医師像」。皆さんはどうお感じになりましたか? 医師自身が考える「理想の医師」と患者さんにとっての「理想の医師」は、少し異なるかもしれません。

次回もお楽しみに!

「三つ葉しんぶん」では、皆さまからのお便りをお待ちしております。日ごろの出来事、想いなど何でも結構です。同封のはがきをご利用ください。



三つ葉のスタッフ紹介

こんにちは、システム部の藤川です。在宅医療にかかわり始めて3年が経ちました。電話、FAX、電気、サーバなどがきちんと動くように保つのが私の仕事です。



昨年は、昭和区山中町と東区東桜(通称・栄)とを統合して、現在の御器所への引越がありました。フロアも広くなり、見通しがすごく良くなりました。

あれから1年が経とうとしています。この1年の間にスタッフが増え、棚が足りなくなり、座席が狭く感じるようになりと、どんどん成長を続けています。

変わりつづける職場ですが、先生方がいつものように、少しでもみなさんとお話がゆっくりできるように日々ちょっとずつの改善を続け、「変わらない三つ葉」であり続けられればと願っております。

医療法人 三つ葉
三つ葉在宅クリニック
〒466-0015 名古屋市昭和区御器所通 3-12
御器所ステーションビル 3F
TEL 052-858-3281 FAX 052-858-3282
URL <http://www.mitsuba-clinic.jp>



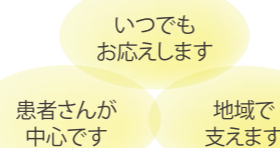
三つ葉しんぶん係メールアドレス
tsubuyaki@mitsuba-clinic.jp

■ 私たちの理念

最高の在宅サービスを提供し
安心して暮らせる社会を創造する



■ 安心を支えるために...



インフルエンザの予防接種について

すっかり秋らしくなってきました。昼夜の気温の差もあり、空気も乾燥してきましたので、体調を崩す方もいらっしゃると思います。手洗い・うがいをしっかり行い、体調管理してください。

さて、インフルエンザはワクチンがかなりの効果を発揮します。三つ葉では、ご希望の患者さんとご家族の方に、訪問診療時に予防接種を行います。

※名古屋市の定期インフルエンザ予防接種の対象者

- 名古屋市民であり、
・接種日において満65歳以上の方
または
・接種日において満60歳以上65歳未満で、心臓、腎臓、呼吸器の障害で身体障害者手帳1級を有する方

◆対象者と費用

患者さんと主介護者1名の方

- ①名古屋市の定期インフルエンザ予防接種の対象者
自己負担金：1,000円
(減免制度の対象者は無料。詳しくはお問い合わせください。)
- ②任意のインフルエンザ予防接種の希望者
自己負担金：3,000円

◆ご予約

訪問診療時に、ご希望をお聞きしています。

◆接種実施日

平成24年10月22日～平成25年1月31日
訪問診療時に実施します。

脳のはたらきと脳の病気

特集

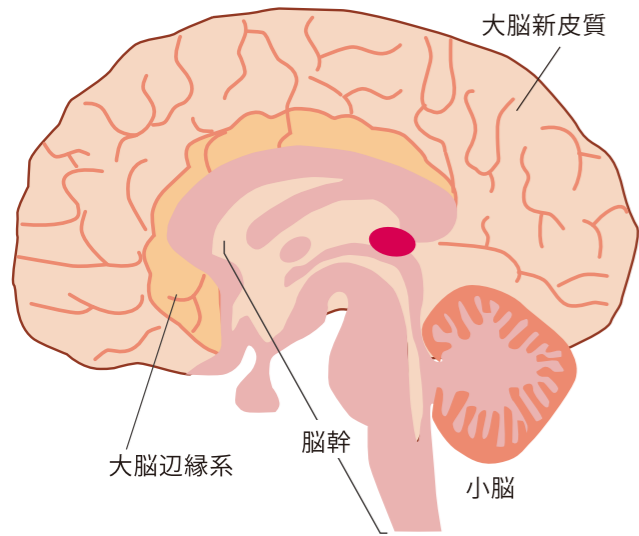
私たち人間の体の動き、感情、暮らしのリズムなど、すべてをつかさどる脳。膨大な数の細胞が精密にはたらき、神経を動かし、私たちが生きていくための指揮をとっています。あまりに複雑で精緻な構造・はたらきをもち、まだまだ明らかになっていないこともあります。基本的な脳のはたらきと神経、脳の病気についてお話しします。

脳の構造はどうなっているの？

脳の中を説明するときの分け方・考え方はいくつかありますが、“ヒト”の進化の過程からみて機能を分けると次のようになります。

大 脳	脳全体の80%を占め、「 大脳新皮質 」「 大脳辺縁系 」があり、さらに「 前頭葉 」「 頭頂葉 」「 側頭葉 」「 後頭葉 」と分けられます。
小 脳	脳全体の約10%の重さで、全身の神経細胞の約半分がここに集中しており、手足のなめらかな動きや体のバランスをとるための筋肉の動きなどを調整しています。
脳 幹	「 間脳 」「 中脳 」「 橋 」「 延髄 」から成り、基本的な生命現象を維持する神経が集中しています。

このうち、**大脳新皮質**は人間の理性や知性をつかさどる機能があり、動物との大きな違いになります。**大脳辺縁系**は、動物的本能や感情をつかさどる部分です。



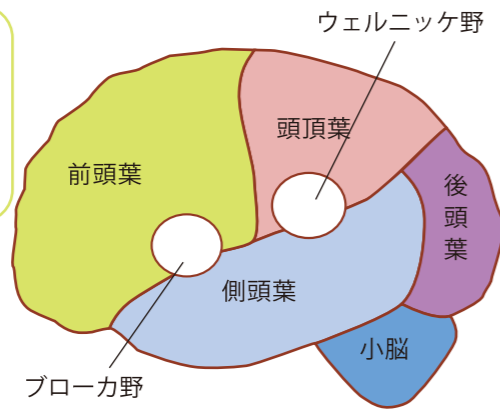
大脳の役割分担はこんな感じ！

前頭葉

前の方は思考、自発性、感情、性格、理性などの中心があり、少し後ろの方には体を動かす「**運動野**」といわれる部分があります。

側頭葉

側頭葉の内側には、記憶や本能・情動にかかわる部分があります。記憶に関わる「**海馬**」はアルコールに弱く、酔っぱらったときのことを忘れてしまうのはそのせいだそうです。



頭頂葉

頭頂葉の前部には、前頭葉の「**運動野**」と並行して、「**感覚野**」があります。顔や手足をはじめ、体中からの感覚情報が集まってきます。

後頭葉

目から入ってきた光の情報を処理する「**視覚野**」という部分があります。

豆知識 ● 言語中枢について

大脳の中で、言語知覚および言語運動を支配していると考えられている領域が「**言語中枢**」です。これは9割以上の人で左側にあるとされています。

また前頭葉の下の方にある「**ブローカ野**」は言葉を発する機能、少し後ろの方にある「**ウェルニッケ野**」は言葉を理解する機能をつかさどります。障害される場所により、「分かっているけど話せない」「話せるけど人のいうことが理解できない」という症状があるのは、このためです。

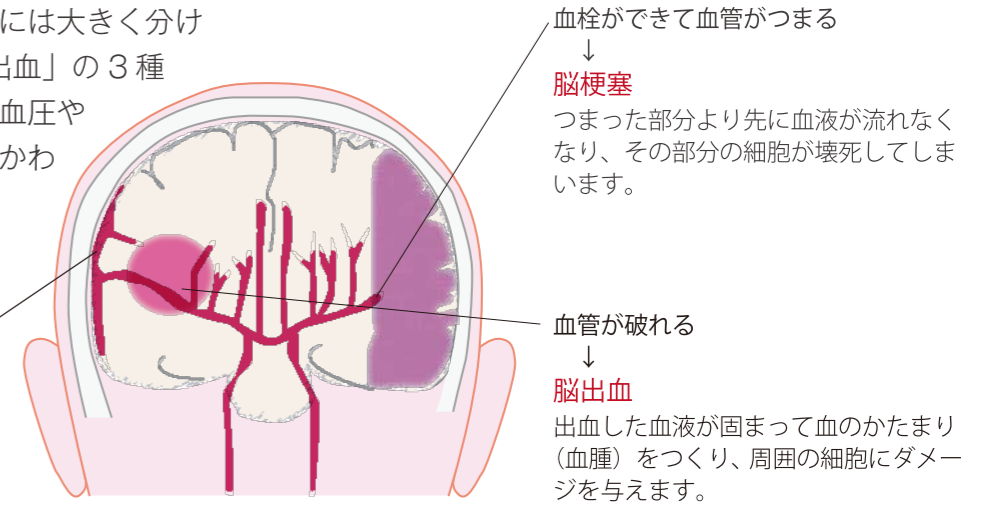
脳血管の病気

脳の血管の病気である「**脳卒中**」には大きく分けて、「**脳梗塞**」「**脳出血**」「**くも膜下出血**」の3種類があります。いずれも原因は、高血圧や脂質異常症などの生活習慣病とのかかわりが深いと言われています。

動脈瘤で血管が破れ、くも膜に出血する

くも膜下出血

動脈から出血した血液が、くも膜下腔に広がり、たまった血液が脳全体を刺激し、激しい頭痛を起こします。



どこが障害されるかで、症状が異なる。

左面で見たとおり、脳の中で、ある機能を果たす部位はほぼ特定されています。その部位が出血や梗塞によって障害されてしまうと、持っている機能が失われます。同じ病気でも、人によって症状が異なるのはそのためです。

認知症についても、「**アルツハイマー病**」や脳血管障害が原因となって、前頭葉や側頭葉が部分的に機能しなくなることによって引き起こされるもので、記憶障害・認知機能障害のほか、理性や感情、生活態度などには大きな個人差が見られます。

脳から出ている神経

脳には、体のいろいろな感覚や動きを調節する神経（末梢神経）の出発点があります。末梢からの情報が脳に届いたり、脳からの指令によって末梢が動いたりするので、主な脳神経は左右12対あり、複雑に入り組んでいます。

	(主なはたらき)	(脳幹の関連部位)
①嗅神経	嗅覚	中脳
②視神経	視覚	
③動眼神経	眼球運動	
④滑車神経	眼球運動	橋
⑤三叉神経	顔面・鼻・口・波の知覚 咀嚼運動	
⑥外転神経	眼球運動	
⑦顔面神経	表情筋の運動、舌前部の味覚 涙腺や唾液線の分泌	延髄
⑧内耳神経	聴覚、平衡覚	
⑨舌咽神経	舌後部の味覚・唾液線の分泌	
⑩迷走神経	のどの知覚・運動 首・胸・腹部の臓器を支配	延髄
⑪副神経	肩や首の筋肉の運動	
⑫舌下神経	舌の運動	